

10  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10

国立公文書館	
分類	(返) (赤)
配架番号	3 A
	14
	36-22

SACK # 17  
 ITEM # 2  
 陸軍航空技術研究所  
 Army Laboratory  
 of the Army

目次

陸軍航空技術研究所

25 第三次熱地試験記事第一細部成績  
(地上器材部)記事 ----- 1

26 燃焼分光學的研究(第一報) ----- 3

27 {  
 一式50形投下「5」劑燃焼の有無  
 一式50形投下雨下彈機能  
 「四」彈永年貯蔵(第二回)  
 「X」板實投下  
 } 試験記事 ----- 5

28 自動車用特殊燃器器付氣化器試験記事(第一次) ----- 9

29 昭和精機工業株式會社製揮発油水分分離器  
 審査記事 ----- 11

30 分光分析ニ關スル調査記事 ----- 13

31 一式爆撃照準眼鏡審査記事 ----- 15

32 高山實驗所工事視察記事 ----- 17

33 日本ラコク工業株式會社工場調査記事 ----- 19

34 中國塗料株式會社工場技術調査記事 ----- 23

35 株式會社神戶製鋼所長府工場技術調査記事 ----- 25

国立公文書館	
分類	
配架番号	36-22

陸軍兵器本部

5. 我國特殊鋼工業, 現況並=對策-----27  
 6. 昭和十六年度研究試驗要覽(除小口)-----29  
 7. オムコ社三五冠「ハンマー」=依<sup>iron</sup>曲軸型鍛造=關スル件-----31  
 8. 洗滌用石油代用=關スル件-----33

東京第二陸軍造兵廠

3. 防錆皮膜, 無煙炭安全性=及ボス交感試験  
 防錆皮膜, 理化學的試験-----35  
 4. 爆発性物質中, 含有水分迅速且正確=測定スル新装置-----37  
 5. 二號火導藥, 精度向上=關スル研究-----39  
 6. 傳爆用硝守藥, 研究-----41  
 7. 火砲製造法, 研究-----43  
 8. G無煙藥用, 工業的製造法並裝置=關スル研究  
 (試製=番方形藥乙, 揮發分=關スル研究)-----45

大阪陸軍造兵廠

6. 鐵裝英地金=關スル研究試驗報告書(第二報)  
 (實包, 鐵裝英=關スル研究)-----47  
 7. 兵器用特殊地金=關スル研究試驗報告書-----51  
 8. 技四甲型彈丸壳体地金=關スル研究試驗報告-----53

名古屋陸軍造兵廠

1. フロムめつき銃身試験射撃=ヨル影響, 研究-----55  
 trial firing

陸軍重砲兵學校

3. 八八式海岸射撃具, 参考-----57  
 4. 要塞重砲兵中隊射撃練習例題集  
 一 海上監視, 参考  
 二 大口径火砲, 直協火力增加=依<sup>assault</sup>突撃支援射撃=試  
 四音源標定=關スル參考  
 5. 蒐錄第一六號-----61

section  
**陸軍氣象部**

- 3. 南方氣象調查 皇第4號補遺  
馬朱半島氣象一覽表(自十月至三月) ----- 63
- 4. 南方氣象調查第六號 比律浜之部 ----- 65

**第25野戰氣象隊**

- 1. 南部佛印氣象月報 ----- 67
- 2. 南部佛印氣象月報 ----- 69

**第9882部隊**

- 1. 北支那氣象月報(昭和16.10.)  
第一部 其一及其(一) ----- 71

**朝鮮總督府氣象台**

- 1. 朝鮮上層氣流月報 ----- 73
- 2. 同 上 ----- 75
- 3. 同 上 ----- 77
- 4. 同 上 ----- 79
- 5. 同 上 ----- 81
- 6. 同 上 ----- 83
- 7. 朝鮮航空氣象報文 ----- 85
- 8. 朝鮮氣象年報附錄 ----- 87
- 9. 同 上 ----- 89

military geography  
the Kwantung Army  
military operations section  
**關東軍參謀部**

- 1. 兵要地誌資料目錄 皇11.16  
皇12.15 ----- 91

**陸軍糧秣本廠器材**

- 1. 噴霧乾燥研究(第一報) ----- 93

**滿洲第五八三部隊**

- 1. 獨軍對戰車障礙物効力研究記事 ----- 95

**海軍艦政本部**

- 1. 技報 第五十四號 ----- 99



第三次熱地試験記事  
第一部試験成績(地上器材之部)記事

第 1. 2. 3.

極秘 航技報第1683號

昭16. 9. 26 陸軍航空技術研究所

(1) 目 的

第一次熱地試験及爾後研究ノ結果ニ基キ試作セル飛行機用偽裝網飛行機用防曇覆及野外天幕用防曇覆ニ向熱地適應効果ヲ檢シ之等ノ改良案又ハ現地應急材料ニ依ル効果増強案ヲ求ムルニアリ

(2) 判 決

- (イ) 供試偽裝網ハ實用ニ適ス
- (ロ) 供試防曇覆ハ二重式ノモノ防曇効果良好ナルモ座席附近ハ整備作業ヲ困難ナラシメ且適風良好ナラザルヲ以テ更ニ之等ノ箇ヲ研究改善セバ熱地ニ於ケル實用價值十分ナルモノト認ム
- (ハ) 野外天幕用防曇覆ハ防曇効果殆ドナク熱地晝間用トシテ實用性乏シキモ夜間防虫防蚊効果ハ良好ナルヲ以テ更ニ防雨水装置ヲ併用セバ熱地夜間露管用トシテ實用ニ決シ得ル

*notes on the third  
exp. is  
carried out  
in hot  
country*

(3) 將來ニ對スル意見

- (イ) 偽裝網ハ更ニ通風ノ陰影ニ關シ考慮研究ノ上防曇及偽裝効果ヲ増大スルヲ適當トス
- (ロ) 防曇覆ハ座席部ノ作業ヲ容易ナラシムル爲支柱ヲ設ケルヲ可トス
- (ハ) 野外天幕用防曇幕ハ前記判決ノ如クナルヲ以テ名稱不適當ナリ

(4) 試験者

陸軍技師 齋藤一之外 2名

(5) 其他

寫眞 18葉

3.4.7.8

航技報第1728號

昭16.10.29

陸軍航空技術研究所

(1) 概 設

「ガソリン」發動機内ノ燃焼現象ニ關スル分光學的的研究ノ豫備實驗ニシテ氣筒頭ニ取付ケタル水晶窓ヲ通ジテ燃焼中ニ發スル光ヲ外部ニ導キ分光器ニヨリ分光センメ撮影ス

(2) 結 果

- (イ) 使用セル分光器ニテハ「バンクロー」乾板ニテ磁ネ3500 $\text{\AA}$  - 6300 $\text{\AA}$ ニ到ル「スペクトル」ヲ撮影スルコトヲ得「ストロボスコープ」細隙ヲ10mmトセル場合焰面ノ露出時間ハ約15分、發光ノ露出時間ハ約25分ヲ要ス
- (ロ) 焰面ノ放出スル光ハ「ノツキング」ヲ生ゼザル場合ハ $\text{C}_2\text{H}_2$ ニヨルモノナリ
- (ハ) 四「エチル」鉛ヲ含有セル燃料ノ場合ハ鉛ハ「ガス」中ニテ $\text{Pb}$ ・ $\text{PbO}$ トシテ存在スルヲ認ム
- (ニ) 發光ニ關スル實驗ハ未ダ不充分ナリ

(3) 將來ノ研究ニ関スル事項

- (イ) 更ニ分解能ノ良好ナル分光器ヲ使用スルコト
- (ロ) 更ニ感光度良好ナル乾板ヲ使用スルコト
- (ハ) 「ノッキング」状態ノ場合ニツキ研究スルコト
- (ニ) 燃焼室ノ中央部ノミナラス点火端ヨリ他端ニ亘リ分布的ナル實驗ヲ實施スルコト
- (ホ) 發光ノ「スペクトル」研究ヲ行フコト

(4) 研究者

陸軍技術特別研究學生 航技中尉 中島 桂太郎  
 (指導教官 中西、田中兩教授及栗野助教授)

(5) 其ノ他

實驗裝置寫眞 3 葉  
 「スペクトル」寫眞 12 葉並ニ其レニ對スル考察アリ

*Handwritten notes:*  
 燃焼室ノ中央部ノミナラス点火端ヨリ他端ニ亘リ分布的ナル實驗ヲ實施スルコト  
 燃焼ノ有無  
 一式五十挺投下兩下彈機能  
 「カ四」彈永年貯蔵(第二回)  
 「ヤ」板實投下  
 existence  
 總 1. 6. 8

軍事秘密 航技報第 1717 號

昭和 16. 10. 21 陸軍航空技術研究所

(イ) 一〇〇式五十挺投下「ちや」彈

(1) 目的

50 挺彈ヲ現制ノ機ニテ「ちや」劑燃焼セザルヤ否ヤ試製炸藥(茶褐充填)ヲ用フレバ燃焼セザルヤ否ヤヲ試驗ス

(2) 判決

10 發實投下セルモ「ちや」劑燃焼スルモノナキヲ以テ制式改正ノ要ナシ

(3) 所見

100 挺彈ヲ靜爆ニ附セル際「ちや」劑燃焼セル事實アリ之ガ理由未ダ理論的ニ説明スルコト困難ナリ、實驗ニ基キ來タルベキ 100 挺型、250 挺型ヲ燃焼セシメザルノ考察ヲ運ラサントス

(ロ) 一式五十挺投下雨下彈

(1) 目的

弾頭信管及弾頭炸薬ヲモ附シ實際敵地ニ對シ投下スル如ク爲シタル場合ノ兩信管兩炸薬ノ機能ヲ基礎的ニ審査セントス

(2) 判決

弾底信管ガ曳火セル時其ノ衝撃ニ依リ彈頭信管及彈頭炸薬爆發シ毒液ヲ微粒子ニ粉碎シ雨下効力ヲ呈セザルヲ以テ發見シタル制式ニ一時之ヲ保留シ速力ニ對案ヲ究スルヲ要ス

(3) 所見

本彈ハ時局對策兵器トシテ製上申手續済ノモノナルガ意外ノ故障ヲ生ジタルヲ以テ速力ニ對案ヲ改究處置セントス之ガ爲先ツ試製一式投下信管ヲ用ヒ速力ニ試験スル擬定ナリ

(1) 「カ四」彈

(1) 目的

既定「カ四」彈保存試験計畫ニ從ヒ第二回目ノ試験ヲ爲スニアリ

(2) 判決

製造後約一年ヲ經過セル本彈ハ炸薬ニ方リ燒夷丸子タル「ゴム」片粉碎セラルルモノ多キ爲威力ハ6~7割程度ニ減少セルモノト認ムルヲ以テ本彈ハ製造後成ルベク速力ニ使用セシムルヲ有利ナリト認ム

(2) 所見

製造後ハナルベク早期ニ使用スル如ク又長期保存ヲ爲サザル如キ整備計畫ヲ爲ス

一方長期保存ニ耐フル本彈ヲ考案スルヲ要スルモ「ゴム」及ニ硫化炭素等ヲ用フル本彈ハ本然的ニ保存性乏シカルベキヲ以テ更ニ明年度ノ試験ニ於テハ特ニ威力低下ノ狀況ヲ被スルノ要アリ

(1) 「ヤ」板

(1) 目的

撒布筒ヲ用ヒテ始メテ投下試験ニ附シ撒布機能、燃焼機能等ヲ試験セントス

(2) 判決

製造後約九ヶ月ヲ經過セル一式方形投下彈燒夷板ハ尙機能良好ニシテ初期投下後1~2分ヲ以テ發燒ス、一式五十挺投下撒布筒ニ收容シ實用ニ供シ得ルモノト認ム

(3) 所見

高々度ヨリスル投下試験ハ其ノ撒布區域廣ク危險アルヲ以テ内地ニ於テハ實用試験困難ノ爲未實施ナルモ試製一式50挺撒布筒ヲ以テスル「ヤ」板撒布ハ實用シ得ルモノト推定ス

(4) 試験員

陸軍中佐 木谷 榮三郎

外 二 名

(5) 其 他

寫 真 3 葉

附 表 1 4

23

自動車用特殊燃節器付気化器  
(第一次)

4

秘 哈文報第 8 9 號

昭 16.10

滿洲第 7 2 5 部隊

(1) 由來及目的

滿洲科學工業製作所ニ係ル自動車用特殊燃節器付気化器ノ實  
用性ヲ試験スルニ在リ

(2) 所 見

自動車用特殊燃節器付気化器ヲ用フレバ揮發油消費量ヲ一割  
節減シ得ルモノト認ム

自動車用特殊燃節器付気化器ヲ用ヒ且特殊液(滿洲科學工業所製  
造ニ係ル揮發性高キ液)ヲ用フレバ石油(又ハ輕油)ヲモ燃料  
トシテ使用シ得ルモノト認ム

燃節器付気化器ノ細部特性及耐久性ニ關シテハ更ニ検討ノ要  
アリ

(3) 試験擔任者

陸軍航技中尉 堀 田 省 三



4.7

部外秘 航技報第1842號

昭16.12.30

陸軍航空技術研究所

## (1) 審査ノ目的

昭16 7 3 航二發第2726號通牒ニ基キ昭和精機工業株式  
 会社製揮発油水分々離器ニ就テ其ノ實用價值ヲ判定スルニ在リ

## (2) 判 決

本器ハ飛行機給油機ノ揮発油水分々離器トシテハ機能不充  
 分ニシテ實用價值乏シキモノト認ム

## (3) 將來ニ對スル意見

本器ハ「セーム」革ノ有スル水分不通過性(揮発油中ニ混入  
 セルモノ)ヲ利用シ密閉加壓式トナシ考案セラレタルモノノ如  
 クナルモ試験ノ結果「セーム」革ノ水分不通過性ハ瀧過壓力ノ  
 上昇スルニ從ヒ減少シ本器ノ所要壓力ト稱スル $1 \text{ Kg/cm}^2$ 乃至  
 $1.5 \text{ Kg/cm}^2$ ノ壓力ヲ加フル時ハ水分不通過性ハ遂ニ失ハルル  
 コトヲ確認セリ

要スルニ「セーム」革ヲ使用セル水分々離器ハ加壓式ニハ適セ

ズ又「セーム」草ハ本邦ニ於テハ規 格ニ合格スベキ資源ニ乏  
整備及補給ニ困難ナリ 依ツテ密閉式水分々離トシテ他ノ  
蒸餾揮發油及水ノ比重差ヲ利用セル 遠心力式、沈澱式又ハ他  
法ニ依ル分離器ニ付研究スルヲ適當トスベシ

(4) 試験期日及担当者

自昭 16.11 陸軍少尉 片岡 誠  
至昭 16.12

30 分光分析ニ關スル調査記事

秘 航技報第 1797 號

昭 16.12.4

陸軍航空技術研究所

(1) 調査ノ目的

分光分析ニ關シ其ノ研究ノ比較的進歩セル諸會社ノ實況ヲ視  
察シ且最近ノ文獻ニ就テ調査シタル所ヲ約述シ以テ本件研究ノ  
參考ニ資セントス

因ミニ當所トシテハ昭和十三年以來之ガ研究ヲ繼續シ定性分  
析ハ既ニ之ヲ實用ニ供シ定量分析ニ就テハ測定誤差 2 ~ 3 % ノ  
精度ニ到達シ得ルノ目途ヲ得アリ (航技報第 1222 號及第 142  
7 號並ニ近ク調整スベキ定量分光分析ニ關スル第二次研究記事  
参照)

(2) 所 見

1. 定性分光分析ハ化學分析困難ナル場合之ヲ實施シテ甚ダ優  
秀ナル結果ヲ收メツツアリ 定量分光分析ハ鐵鋼類及非鐵金  
屬ノ何レニモ適用可能ニシテ特ニ定量スベキ成分 5 % 以下ノ  
場合ニ有効ナリ 又迅速ナル特徴ヲ極度ニ發揮セシムレバ 10  
分間以内ニテ分析ヲ完了スルモノニシテ本法ハ假令精度ハ劣

ルトモ金属工場ノ現場ニ應用シ極メテ有用ナルモノト見  
ラル

2. 分光器ヲ設備セル諸工場ニ於テ定性分光分析ハ良好ナル  
績ヲ舉ゲツツアルモ定量分析ハ未ダ實用ノ域ニ達セズ唯日  
高岡工場及日産自動車株式会社ニ於テ其ノ成果ノ稍々見ル  
キモノアルニ過ギザル狀況ナリ

3. 定量分光分析ノ誤差ハ其ノ原因多シテ而モ其ノ價一  
シ難キモ測定ノ好條件下ニ在リテハ概ネ數%程度ニ止メ得  
モノト認ム

4. 將來ニ於ケル研究ノ重點ハ精度ノ向上及實用範圍ノ擴大ニ  
在リ之ガ爲放電條件ノ影響、「スペクトル」線對ノ選定等ニ  
就テ基礎的研究ヲ促進スルノ要アルモノト認ム

(3) 調査期日及擔任者

昭16.10 陸軍航技中尉 平松良雄

31

一式爆撃照準眼鏡審査記事

2

極秘 航技報第1762號

昭16.11.19

陸軍航空技術研究所

(1) 由來及目的

1. 由 來

一式爆撃照準眼鏡ハ爆撃速度及高度ノ増大ニ適應セシムル  
如ク爆撃照準眼鏡(八八式三型)ヲ改良セルモノニシテ昭和  
14年8月日本光學工業株式会社ニ試作ヲ命ジ同16年1月  
竣成セリ

2. 目 的

本試験ノ目的ハ首領試作眼鏡ノ機能試験ヲ行ヒ實用ニ適ス  
ルヤ否ヤヲ判定スルニ在リ

(2) 判 決

供試眼鏡ハ之ニ一ニ細部改修ヲ施セバ實用ニ適スルモノト  
認ム 尙細部ニ關スル試験ノ結果ヲ要約スレバ次ノ如シ

1. 横 線補正機構及計算ハ共ニ機能良好ナリ

2. 氣泡水準器ハ數次ノ高温、低温試験ノ結果破損及漏液ナ  
ク且溫度變化ニ因ル氣泡徑ノ變化ヲ減少セシメ得タリ

(航技報第1295號爆擊照準眼電用氣泡水準器検査記事参照)

3. 防曇用電熱装置及照準角ノ變化機構ハ附圖第一、第二ニ示セル如ク改修スルノ要アリ

因ミニ防曇用電熱装置ハ曇ノ發モヲ待チ電流ヲ通ジ之ヲ除去セントスルヨリハ寧ロ曇發生前豫メ電流ヲ通ジ之ヲ強クシ置ク方有効ナリ

(3) 將來ニ對スル意見

1. 眼鏡類ハ從來熱地試験少キ爲熱地ニ於テ不慮ノ故障(先般泰國ニ供給セラレシモノハ鏡筒内下部發錆シ退曳角ノ附與困難トナレリ)ヲ生起スルノ虞アルヲ以テ今後機會アル毎ニ熱地試験ヲ實施スル要アリ

2. 本眼鏡ニテハ直接外氣ニ接觸セル光學硝子ノミニ防曇装置ヲ施シタルモ將來ハ鏡筒内部ノ光學部品ニ對テモ防曇ヲ考慮スルノ要アリ

(4) 検査期日及擔任者

自昭16.1 陸軍航技中尉 山下喜正以下2名  
至昭16.8

(5) 其ノ他

附圖 3, 附誌 31

總 1. I

秘 航技報第1311號

昭16. 12. 13 陸軍航空技術研究所

(1) 視察ノ目的

乗鞍嶽ニ新設セラレタル高山實驗所ノ建造工事狀況ヲ視察シ之ガ檢收及使用ノ爲必要ナル諸準備資料ヲ求ムルニ在リ

(2) 工事概要

- 一 建築位置
- 二 交通状態
- 三 建築敷地
- 四 建築工事擔任並ニ工期
- 五 建築物梗概

其他 附圖 4

(3) 視察期日及視察者

自昭 16. 11. 18 } 陸軍主計少尉  
至昭 16. 11. 26 } 西田 博  
以下三名

3. 4. 7

秘 航技報第 1831 號

昭 16. 12. 22

陸軍航空技術研究所

## (1) 目的及由來

常所囑託日(八幡製鐵所技師 田所芳秋博士ノ研究ニ係ル特  
殊磁器ヲ使用シ横河電機ヲシテ試作セシメタル横河試一點火栓  
ハ既ニ基礎試験及一部ノ實用試験(航技報第 1091 號)ヲ終了  
シ彼ノ獨國「ボツシュ」社ノ世界ニ誇ル「ジスターコルンド」  
點火栓ニ匹敵スル優良品ヲ得ルノ見込明カト成レリ 依ツテ更  
ニ其ノ研究ノ完成ヲ促進シ且之ガ工業化ヲ圖ル意味ニ於テ申請  
(昭 16. 9. 29 航技秘第 1629 號)認可(昭 16. 10. 24 航二  
發第 4612 號)ヲ得 昭和 16. 10. 31 航技秘第 1871 號ヲ以  
テ横河電機ニ對シ増加試作ニ關スル指示ヲ與ヘタリ

而シテ之ニ要スル特殊磁器ハ從來ノ如ク八幡製鐵所ノ田所  
研究室ニ於テ製作スル程度ニテハ其ノ數量ハ因ヨリ將來ニ於ケ  
ル多量生産ヘノ移行ノ準備トシテモ不十分ナルヲ以テ特ニ自  
所囑託ト連繫アル高知「ガス」株式會社ヲ利用シテ同社ノ分  
身ナル日本「プラグ」工業株式會社ヲシテ直接田所囑託ハ指導  
ノ下ニ其ノ製造ニ當ラシムルコトトセリ 即チ特殊磁器ノ製點



火栓ノ増加試作ニ方リ廣河電機ヲシテ下計工場トシテ日本「プラグ」工業ヲ利用スルノ形式ヲ採ラシメタリ

今般技術指導ノ爲右日本「プラグ」工業株式会社ヲ觀察シ特殊磁器製作ノ實況ヲ精査シタルヲ以テ以下其ノ概況ヲ記述セントス

## (2) 所 見

1. 本工場ハ田所博士指導ノ下ニ特殊磁器ノ製作ニ統テ一通其ノ技術ヲ把握シアルモ未ダ所助ノ生産能力ヲ具有スルニ至ラス更ニ同博士トノ連絡ヲ緊密ニシテ生産能率ノ向上ヲ計ルノ要アルモノト認ム
2. 本工場ノ工務主任岡林智吉氏ハカツテ田所研究室ニ在リテ田所博士ヨリ本特殊磁器ノ製法ニ直接指導ヲ受ケタルモノナルガ目下ハ本工場唯一ノ技術者ナリ而シテ以前他ニ今一人岡林氏ノ代リヲ得ル程度ノ技術者ヲ有シタルモ本事業ニ應召シ岡林氏ニ對スル負擔過重ナルヲ以テ技術員ヲ増強スルコト緊要ナリト認ム
3. 工員モ亦僅少未熟ノモノナルヲ以テ更ニ増強ヲ又本工場ハ工員ニ就テモ現在員過少ナリ 増員ノ要アルモノト認ム
4. 工場施設中最モ重要ナル構成値ハ目下3基ナルガ指示數量ニ對シテハ尙不十分ナリ 擴充ニ増設スルノ要アルモノト認ム

5. 本工場ヲ高知市ニ遷定シタル主要ナル理由ハ田所博士級故ノ地ニシテ遷々「ガス」ノ取得手續ナリシニ因ルモノニシテ之ヲ本格的ニ工業化スルニ方リテハ工場立地上高知地方ノ價値ニ關シ再檢討ノ要アルモノト思料セラル

## (3) 調査期日及調査者

昭16.12.10.11 陸軍航技中佐 泉 貞 清

秘 航技報第1833號

昭 15. 12. 22 陸軍航空技術研究所

## (1) 調査ノ目的

中國塗料株式會社ニ於ケル發生劑用酸素吸入器ノ生産狀況ヲ  
視察シ技術指導上ノ參考資料ヲ求ムルニ在リ

## (2) 所 見

一 當工場ハ陸軍ヨリノ大量注文品ニ對シ増産ヲ開始スルト共  
ニ設備ノ改良、工場ノ一部増策工員ノ増員等ヲ行ヒ從來民需  
用品タル「プリスライト」(尿酸合成樹脂)等ノ製造ヲ一時  
中止シ其ノ乾燥機ヲ酸素發生劑生産ノ爲應用シ目下全行程ヲ  
通ジ一貫作業ヲ營ミアリ操業狀態ハ良好ナルモノト認ム

二 酸素發生劑ノ生産工程トシテハ機械工業ノ如ク自動機械及  
器具ヲ使用スル工程ハ本劑ノ外被タル「プリキ」(樹脂)製造ト發  
生劑用容器製造ノミニシテ他ハ藥物ノ定量混合、日本紙ヘノ  
點火藥ノ塗布、火燭製作、發生劑主体ニ點火藥ノ裝填「アス  
ベスト」紙ニ依ル包裝等全テ工員ノ手操作ニテ製造シアリ  
今後ハ此ノ種手操作ヲ自動的又半機械的ニ改良スル如ク研究  
ノ要アリト認ム

(3) 調査事項

- 一 會社ノ沿革
- 二 會社ノ概要(編成其他)
- 三 主要生産品ノ概要

- 1. 酸素發生劑及發生劑用容器
- 2. 空氣清淨劑
- 3. 船底塗料

(4) 調査期日及調査者

昭 16. 10. 20 陸軍軍醫少將 青木 九一郎

以下 二名

35

株式会社船橋戸部工場技術調査報告

第 1 . I . C

板紙 船技報第 1835 號

昭 16. 12. 23

陸軍航空技術研究所

(1) 目 的

研究機ニ一段落ヲ遂ゲ鋭意生産能力ノ向上ニ努メツツアル  
工場ノ作業工程ヲ詳細ニ調査シ主トシテ歩留リ向上ノ見地ヨリ  
調査ノ設計ヲ行ヒ以テ技術指導上ノ参考資料ヲ得ルニアリ

(2) 所 見

尙世ハ輕合金加工會社トシテ其ノ歴史比較的尙ラシキト總數  
ニ處テ機械シタル關係上作業方式ニ對シ種々設備ノ不調和カ  
ルヲアリテ十分ニ其ノ能率ヲ發揮シ得サルニシテ  
然レドモ設備ノ改善ハ今直チニ實施スルコト困難ナルヲ以テ取  
成ハズ現在ノ設備ニ對シ之ニ調和スル如ク作業方式ヲ再編制シ  
研究改善スルヲ極力認ム(以下略)

(3) 技術調査事項

- (1) 溶解作業
- (2) 鑄造作業
- (3) 延延作業
- (4) 管材ニ關スル事項

(5) 作機部等ニ関スル事項

(4) 副 参 考

陸軍中將 安 田 武 吉

陸軍少將 中 島 恒 次 郎 外 3 名

5

我國特殊鋼工業ノ現況並ニ對策

極秘 調査報告第9號

昭 16. 11 陸軍兵器本部

(1) 記 事 概 要

第一、第二ノ二篇ニ分レ第一篇ニ於テハ我國特殊鋼工業ノ發  
展ノ經過、需給狀況、増産計畫、生産狀況、製造能力等ニツキ  
述ベ第二篇ニ於テハ兵器用特殊鋼ノ品位向上方策ヲ論ズ

6

昭和十六年度研究試験要覧(除小口)

秘 技術速報第140號

昭 16. 12. 27 陸軍兵器本部技術部

東京第一、第二、相模、名古屋、大阪、小倉、仁川、及南滿  
造兵廠ニ於テ實施ノ研究試験一覽表ニシテ區分、項目、目的  
實施要領、及擔任箇所ニ分チ略述ス

頁 數 164



7 オイムコ社35リットルハンマーニ依ル  
曲軸型鍛造ニ關スル件

秘技術速報第111號 陸軍兵器本部技術部

昭和17.1.7

(1) 目的

日本火工(川崎工場)ニ新設セラレタル戰車車輛用曲軸  
型鍛造設備完成シ試運轉狀況ヲ調査セシヲ以テ概要ヲ紹介  
ス

(2) 調査事項

Ⅰ. 設備材料

(イ) ハンマー

型式 オイムコ社・カウンターブロー式汽鎚 1基

容量 35000 立方寸

氣壓 4 気/平方寸

(ロ) 加熱爐

セミガス式 2基・豫熱用・加熱用各1基

最高溫度 1450°C 20本裝入可能

(ハ) 捻曲機 アヂヤワリス 7時・全体加熱式

(ニ) チハ車用曲軸材料 H.S. 重量160 磅

(ホ) 鍛造型材 窒素鋼・H.S. - 0.0 鋼

## 2. 作業要領

- (1) 荒地取り
- (2) 型打
- (3) 捻曲
- (4) 作業能力 順調ニ作業セバ月産250~300本可能ト考ヘラル

## 3. 製品ノ状況

仕上型打完了セルモノハ餘肉1~1.5程度。現在國産品中最優秀米國パーク社製品ニ比シ大差ナシ。尙型ハ手彫ニテ充分仕上シアリ。500 600本ノ命數ヲ豫想セラル材料歩留ハ粗材150疋。打上120疋。完成90疋ナリ

## 6. 洗滌用石油代用品ニ關スル件

技術速報第144號

昭17.1.26 陸軍兵器本部技術部

### (1) 目的

北支那野戰自動車廠長ノ報告ニシテ洗滌用石油ノ不足ヲ緩和スル目的ヲ以テ之カ代用品ヲ研究使用セル結果下記ノ通りナリ

### (2) 判 決

第一液ハ・クレンザート粉石鹼ヲ水ニ混合セルモノ

第二液ハ・クレンザートエマル液ヲ水ニ混合セルモノナリ

	水	クレンザート	粉石鹼	エマル液
第一液	190立	0.8疋	0.8疋	
第二液	180立	0.8疋		0.5立

洗滌用石油ニ比シ大ナル褐色ナキノミナラズ。效力ハ某期間迄々磨齊ニシテ命數亦同様。但シ擦盥且手入用木綿ノ擦布少キ等ノ點ヲ有シ擦用ノ價値大ナルモノト認ム但シ第二液ノエマル液ハ入手困難且價値モ廉カラザルヲ以テ第一液ヲ可トス

(3) 將來ニ對スル意見

現在ハ常廠(北支那野戰自動車廠)ノミニテ使用セルモ  
將來軍ハ勿論廣ク民間ニモ使用スル如クセバ國家的ニ頗ル  
有利ナリ

防錆皮膜ノ無煙藥安定性ニ及ボス交感試験  
防錆皮膜ノ理化學的試験  
(鐵製藥器防錆皮膜ノ性質ニ關スル研究)

總 1 . I . 1 . 8

部外秘 研究試験報告第245號

昭16.6.

東京第二陸軍造兵廠研究所

(1) 目 的

鐵製藥器ニ施セル防錆皮膜ノ無煙藥安定性ニ及ボス影響並ニ  
各種無煙藥ノ防錆皮膜ノ被覆力ニ及ボス影響ヲ探究セントス

(2) 判 決

鐵製藥器ニ「パーカー」、「メタライト」又ハ平野式塗裝ヲ施セ  
ルモノハ何レモ無煙藥ノ安定性ニ何等影響セス且塗裝ヲ害セラ  
ルルコトナキモノト認ム

(3) 將來ニ對スル意見

「パーカー」、「メタライト」等ノ防錆皮膜ハ無煙藥ト交感ナキ  
ヲ以テ副式化ヲ促進スルヲ要ス

(4) 研究擔任者

眞 託 鶴 岡 信 三 他1名

(5) 其ノ他

防衛皮膜ノ理化學的試験トシテ陸軍教授中谷晴夫他2名ノ實  
施セル各種防備皮膜ノ防備効果ニ關スル比較試験アリ  
其レニヨレバ「パーカー」最良ニシテ「メタライト」之ニ次ギ  
平野式ハ遙カニ劣ル

4 燃發性物質中 / 含有水分ヲ迅速且正  
確ニ測定スル新装置

8

大岩參贊第10號

昭 16. 10

東京第二陸軍造兵廠 岩倉製造所

(1) 諸 論

本記事ハ *Nitro Cellulose* 1941.5月號中ニ記載セ  
ラレアル記事ヲ翻譯セルモノニシテ火藥燃發中ノ水分揮發分等  
ヲ迅速且ツ正確ニ測定スル事ハ學業作業ノ如キ繁忙ナル作業ニ  
從事スルモノトシテ檢査業務ノ間易化或ニ作業進捗上必要ナ  
ル事項ナリ

(2) 装置ノ概要

乾燥器ニ電動機驅動換氣機ヲ取付ケ之ヨリ新鮮ナル乾燥空氣  
ヲ乾燥器内ニ導キ内部ノ試料ヲ迅速乾燥スル一方乾燥器ニ直接  
解析的秤ヲ取付ケ乾燥器内ノ試料ヲ直接秤量スル如ク装置セラ  
ル之ニヨリ乾燥ヲ迅速トナスト共ニ普通行ハル如ク乾燥器ヨ  
リ試料ヲ取出シ冷却後別ノ天秤ニテ秤量スル如キ面倒ナル操作  
ヲ省略シ得、著シク測定時間ヲ短縮シウル

(3) 翻譯者

川 崎 兵 投 中 尉

5 二號火導藥ノ精度向上ニ關スル研究

I = 一部配布、8 同覽

部外秘 火岩研究報第105號

昭 16. 10、 東京第二陸軍造兵廠岩鼻製造所

(1) 目 的

二號火導藥トシテ消火セズ而モ燃焼秒時最モ適當ナル配合成分ヲ確立シ併セテ使用木炭々化度ノ許容範圍ヲ探究スルニアリ

(2) 判 決

1. 同一木炭々化度ニテハ制式配合ハ小粒配合ニ比シ長秒トナ
2. 燃焼秒時規格内ニアル爲ニハ制式配合ハ炭化度30度以上ヲ要シ小粒配合ニテハ30度以下ニテ足ルヲ以テ小粒配合ハ消火ノ危險性少シ
3. 小粒配合ハ制式配合ニ比シ燃焼秒時小ニシテ精度良好ナリ
4. 制式小粒兩配合ニ於テ平均炭化度30度以下ナル場合ハ28度木炭ヲ混用スルモ消火セズ

(3) 將來ニ對スル意見

燃焼秒時規格内ニアル爲ニハ判決2ノ如ク制式配合ハ炭化度30度以上ヲ要スルヲ以テ昭和十三年火岩研報第88號判決ニヨルモ制式配合ハ小粒配合ニ比シ消火ノ危險性大ニシテ且ツ燃



燒精度ニ於テモ小粒配合ニ劣ルヲ以テ秒時適當、精度良好ナル火導藥ヲ得ルタメニハ小粒配合ニ移行スルヲ可トス

(4) 研究擔任者

陸軍兵技少佐 二階堂 可 外七名

(5) 其 他

附表 2. 附圖 1.

6 導爆用硝字藥ノ研究

1. 8

部外秘 研究試験報告第261號

昭16.9

東京第二陸軍造兵廠研究所

(1) 目 的

信管尾筒導爆藥トシテ硝字藥ニ「パラフィン」ヲ含有セシメタル場合ニ於ケル「パラフィン」含有量ヲ各種溫度ニ於テ被起爆性並ニ導爆力ニ及ホス影響ヲ求ムルニ在リ

(2) 判 決

1. 「パラフィン」含有量2%乃至5%ノ硝字藥ハ $-44^{\circ}\text{C}$ 乃至 $-48^{\circ}\text{C}$ ニ於テハ此レニ植込セル窒化鉛ニヨル被起爆性並ニ導爆力ニ異状ナシ
2. 「パラフィン」含有量1%乃至4%ノ硝字藥ヲ $60^{\circ}\text{C}$ ニテ30日間加温スルトキ此レニ植込セル窒化鉛ニ「パラフィン」浸潤シテ窒化鉛ノ起爆力ヲ消失セシムルニ至ル
3. 硝字藥ニ植込セル窒化鉛ノ「パラフィン」含有量2%以上トナルトキハ硝字藥ノ起爆困難ケリ

(3) 將來ニ對スル意見

窒化鉛ヲ植込ムベキ硝字藥ニハ濕地及夏季在線上檢點時5分

以下「パラフィン」ノ湯ハ不可ナリ 但シ更ニ高熔點點ノ「パラフィン」類似品( 蜂蠟、クロル、ナフタリン等)ヲ使用スル場合ハ彙文ヘナキモ本件ニ關シテハ別ニ報告ス

(4) 研究擔任者

陸軍兵技中尉 酒 向 清 他2名

(5) 其ノ他

附 圖 4

7 火砲製造法ノ研究

I 連帶

研究試験報告第180號

昭16.12

名古屋陸軍造兵廠熱田製造所

(1) 目 的

火砲製造法ヲ研究シ多量生産ノ實施ヲ容易ナラシムルニ在リ

(2) 判 決

1. 多量生産ノ基準ヲ得タリ
2. 初度製品ニツキ試験時準ヲ行ヒ良好ナル成績ヲ得タリ

(3) 將來ニ對スル意見

豫定ノ期日ニ火砲ノ竣工ヲミタルモ其ノ製造方法ヲ一瞥スルニ留意ニ滿タザルモノ多クアリ

即チ次ノ諸點ニ就テ更ニ研究ヲ積ヌル要アルヲ痛感ス

將來企圖シアル作業方法トシテハ下記ノ如シ

1. 理想的ナル分業ノ確立
2. ノニ件フ刃工具ノ整備
3. 特ニ互換性耐與ニ關スル爲工作「ゲージ」ノ確立竝ニ專門取付具ノ設計
4. 分業ニ件フ使用機械ノ配置

5. 鍛造ニ於ケル余肉減少ノ爲ノ手段方法

6. 機械作業ヲ容易ニスルタメノ完成調整

要スルニ初度製品ニ在リテハ完成後定期日ニ對シ從來ノ方法ヲ  
取りタル節少シトセズ又其ノ爲ニ拙速主義ニ墮シタル様アリシ  
カバ今後上記各項目ニ向ツテ一層研究ヲ重ネ多量生産ニ對應ス  
ベク萬端ノ智能ト細心ノ管理トヲ作業ニ傾注シ以テ上司ノ意圖  
ノアル所ニ副ハン事ヲ期スル次第ナリ

(4) 研究擔任者

陸軍少佐 柳 川 太 郎 他3名

(5) 其ノ他

附 圖 90、附 表 17

8 G無煙藥甲ノ工業的製造法ニ關スル研究(試製ニ番方形藥乙ノ揮發分ニ關スル研究)

I. 1. 8.

部外秘 火岩研報第101號

昭 16. 3 東京第二陸軍造兵廠 岩鼻製造所

(1) 目 的

試製ニ番方形藥乙ノ揮發分ニ關スル現行規格ハ理論上竝ニ實  
際上不合理ナル點アリ、續テ同火藥乾燥風晒ニ於ケル揮發分變  
化ノ狀況ヲ探求シ、假協定揮發分規格ノ當否ヲ研究シ、最モ合  
理的ナル揮發分ノ規格確立ノ資料ヲ得ントスルニアリ

(2) 判 決

1. 試製ニ番方形藥乙ニ於テハ現行ノ $0.3 \pm 0.2\%$ ノ揮發分規  
格ヲ $0.4 \pm 0.3\%$ ニ變更スルヲ適當ト認ム
2. 本火藥ノ揮發分ニ關射ノ結果ニ徴スルニ藥熱ニ及ボス影響  
極メテ少ク實用上公差範圍 $0.2$ ヲ $0.3$ ニ改ムルモ精度ニ支障  
ナシ

(3) 將來ニ對スル意見

試製ニ番方形藥乙ノ成分中ニハ「カンフル」 $1\%$ ヲ含有ス  
現行G無煙藥甲揮發分測定法ニ依リ揮發分ノ値大ナル憂ア

リ、此點ニ關シ更ニ嚴密ナル研究ヲ實施スルノ要アラシ

(4) 研究擔任者

山 中 少 佐 外 二 名

(5) 其 他

本 文 7 頁 附 圖 4 葉

6 鐵藥炭地金ニ關スル研究試驗報告書  
(第二報)

(實包ノ鐵藥炭ニ關スル研究)

I へ一部、I へ二部、B へ二部配布

研究試驗報告第367號

昭16.12

大阪陸軍造兵廠研究所

(1) 目 的

本研究ハ東京第一陸軍造兵廠ニ於テ實施中ノ試製實包用鐵藥炭ニ生スル故障ノ原因ヲ探求シ之ヲ排除シ以テ實包用鐵藥炭ノ實用化ヲ促進セシムルニ在リ

(2) 判 決

1. 地 金

實包用鐵藥炭地金ハ低炭素鋼ニシテ非金屬介在物A(學振  
第19小委員會決定)少キ地金タルヲ要シ其ノ清淨度ハ未ダ  
言明シ得サルモ0.3以下ヲ良シトスベシ

2. 抽出困難ニ對スル處置

製造方式ハ現在東京第一陸軍造兵廠ニ於テ立業シアルモノ  
ニシテ鐵水可ナルモ二番壓伸後ノ二番端部ヲ550°C 2時間ト  
アルヲ若干段メ(550°C 1時間)或ハ藥スレバ孟ノ内形ヲ完

成品ノ内形ヨリ若干大キクスル程度トシ蓋ノ底部ヲ以テ完成  
品ノ底部ヲ蓋ノ銅部ヲ以テ完成品ノ銅部ヲ作ル加キ方式トナ  
シ完成品ノ抽離原因部(藥莖底部ヨリ約6~8絲ノ部分)ノ  
硬度ヲ概ネ200HVニ高ムレバ抽出良好ナル藥莖得ベシ

3. 銅割(及莖口割)ニ對スル處理

銅割及莖口割ハ前記非金屬介在物Aノ存在ト相俟テ硬度ノ  
残留加工ニ依ル材質ノ脆化ニモ基クモノト思考サルヲ以テ四  
番延伸以後ノ適宜硬度ニ高キ部ニ攪練ヲ加ヘ完成品ノ硬  
度分布曲線ヲシテ屋島形曲線ヲ取ラシムレバ前記判決ニト相  
俟チテ銅割、莖口割ヲ除去スルヲ導以テ目的ヲ達スル得ベ  
シ

(3) 將來ニ對スル意見

1. 製造方式ニ就テハ判決2及3ニ允ベタル通り
2. 攪練時ノ減摩材トシテノ被銅ハ現在他種藥莖製造ニ於テ  
モ實施シアル所ニシテ効果的ナルコトハ明カナルモ之ガ被銅  
手段ハ資源及「スクラップ」問題ト關聯シ甚ダ重大ナルヲ以  
テ當所ニ於テモ急速ナル協力ヲ決意準備シアリ
3. 判決ノニ述ベタル非金屬介在物ノ影響ハ莖体肉厚最モ薄キ  
實包藥莖ニ於テ特ニ顯著ナルヲ以テ之ガ材料取得工場ノ決定  
ハ特ニ嚴選ノ要アリ

(4) 研究擔任者

陸軍兵技大佐 小 茂 重 行 他1名

(5) 其ノ他

附 圖 8 寫 眞 24

7 兵器用特殊地金ニ關スル研究試験報告書  
1.8

研究試験報告第368號

昭17.1 大阪陸軍造兵廠研究所

(1) 目的

「ラインメタル」十五種加農押収薬莖(尖銳彈ニ使用)  
ニ就キ其ノ材質並ニ製造方式ヲ調査シ且本邦試製品ト比較  
シ以テ貴銅藥莖製造上ノ參考資料ヲ得ントスルニアリ

(2) 判決

内外國製薬莖ノ差異ヲ列舉スレバ次ノ如シ

- 1 成分 試製品ハ貴銅第五種・外國品ハ7:3貴銅
- 2 外國品ハ薬底部及其附近ノ冷間加工度大ナリ
- 3 外國品ノ接際部ハ加工ニ依リテ特ニ抗力ヲ増大シアリ
- 4 外國品ニハ药底内部ニ何レモ鑿狀ノ疵アリ・之接際部  
ニ冷間加工ヲ與フル爲ニ形ノ杵ヲ使用シタル爲ノ肉寄り  
ト考ヘラル
- 5 外國品ノ接際部附近ニ於ケル厚サハ試製品ニ比シテ薄シ
- 6 外國品ハ薬口燒鈍ノ深サ少ナリ
- 7 發火金ニハ易削性鉛貴銅ヲ使用シ精度ト生産速度ノ上  
昇ヲ期シアルガ如シ



8 以上ノ調査ニヨリ特ニ研究スベキ點ヲ擧グレバ次ノ如

シ

- A 7:3 黄銅ト現制黄銅ノ適性ニ關スル再検討
- B 接線部附近ノ膨脹ガ主トシテ抽出難ノ原因ヲ爲スヲ以テコノ部分ニ冷間加工ノ影響ヲ盡ス如ク操作シ或ハ又特ニコノ部分ニ冷間加工ヲ與スル如クシ金質微緻化ニ彈径伸ノ増大ヲ期ス

(3) 將來ニ對スル意見

「ラ」式十三四等銃ニ關スル參考資料ヲ得タルヲ以テ大造第三製造所ト協カシ以テ此種等銃ノ完成ヲ期ス。冷間加工ト金質微緻化等ニ關係ハ目下研究中。7:3 黄銅・6:4 黄銅位ニ現制黄銅ノ適性ニ付テモ再検討ノ要アルヲ認メ研究中ナリ

(4) 調査責任者

朝倉技師、島村技師

(5) 其他

本文 20 頁 附圖 6 附表 1 寫真 4

8 技四甲型彈尾体地金ニ關スル  
研究試験報告書

1.8

研究試験報告第 369 號

昭和 16.12 大阪陸軍造兵廠研究所

(1) 目的

銲接性良好ニシテ資源ヲ考慮シタル砲身鋼ト同程度ノ金質ヲ有シ彈尾体地金トシテ適當ナル地金ヲ得ントスルニアリ

(2) 判 決

NO.1 地金ハ 850<sup>°</sup> 燒入 500<sup>°</sup> 燒戻ニ於テ其ノ金質微緻ハ砲身鋼第一種 (NO.3) ト殆ンド大差無ク且銲接性モ比較的良好ナリ 而シテ資源的ニ見テ「ニッケル」ヲ含有セザルヲ以テ彈尾体地金トシテ最モ適當ナルモノト認ム

NO.2 (彈丸鋼ニ相當ス) ハ抗張試験成績ハ良好ナルモ衝擊値ス NO.1 及 NO.3 ニ比較シテ著シク低シ又銲接性モ高炭素ノ爲前者ヨリ劣ル此種地金ハ熱處理ヲ誤レルトキハ衝擊値ノ低下ヲ來ス恐レアルヲ以テ彈尾体地金トシテハ推將シ難シ

地金別	T. O.	Si	P	Sg
NO.1	0.25	∠0.35	∠0.035	∠0.035
NO.2	0.55	"	"	"
NO.3	0.25	"	"	"

地金別	Mn	Ni	Ort
NO.1	0.3~0.6		0.5~0.8
NO.2	"	—	—
NO.3	"	1.5	—

(3) 將來ニ對スル意見

本試験ニ依リ彈尾体地金トシテ砲身鋼ニ代用シ得ルモノハNO.1程度ノ低合金鋼ガ適當デアルコトヲ知り得タルモ元來NO.1ハ炭素量0.25%ヲ目標トシタルモノニシテ炭素量ノ範圍ヲ決定スル爲尙0.2%程度ノモノニ就テ金質微數ヲ試験シ置ク必要ヲ認ム

(4) 研究擔任者

龜海 技手 中根 技手

(5) 其ノ他

本文 12頁 附圖 8

1 「クローム」メッキ銃身試験射撃ニヨル影響ノ研究

(四部受二部ヲIへ一部ヲBへ送附)

研究試験報告號外

昭 16. 12. 名古屋陸軍造兵廠 鳥居松製造所

(1) 目的

技術本部ヨリ「クローム」メッキヲ施セル銃身ニ對シ試験射撃前後ニ於ケル腔中寸法検査ノ要求アリタルモ之ガ實施ハ多量生産ニ對シテハ検査並ニ手入ニ多クノ人員ト時間トヲ要スルヲ以テ果シテ其ノ必要アリヤ否ヤヲ研究調査スルニアリ

(2) 判決

當製造所ニ於ケル作業方式ニ依レバ試験射撃前後ノ腔中寸法検査ノ必要ヲ認メズ

(理由)

- 射撃前後ノ腔中寸法ノ變化セルモノノ率ハ全成品數ノ約4%ナルモ之等ノ「クローム」メッキ膜ノ厚ミ寸法ハ凡テ公差範圍内ニアリ
- 射撃後ニ反應試験(フェロキシール試験法)ヲ實施スルモ反應ナク且メッキ膜ノ剝離ヲ認メズ

(3) 將來ニ對スル意見

本研究ノ結果ニ依リ「クローム」メツキ銃身射撃前後ノ腔中寸法検査法ノ設定ハ不必要ナリト認ム

(4) 研究擔任者

雇員 關山良章

3 88式海岸射撃具ノ參考

部外秘 蒐錄第214號

昭和16.10 調製

陸軍重砲兵學校

(1) 88式海岸射撃具ヲ設備セル觀測所ニ於ケル觀測所手簿調製要領

本要領ハ「砲兵觀測通信教範草案」及「88式海岸射撃具ニ依ル觀測教育規定」ニ準據シ各要塞ニ於ケル88式觀測所ニ平時ヨリ整備スベキ觀測所手簿ノ調製要領ヲ記述シアリ  
別冊 觀測所手簿説明書

本書ハ「觀測所手簿調製要領」ノ細目ヲ別冊「觀測所手簿(一例)」ニ依リ説明シ此ノ一例ニ依リ實際ノ觀測所手簿ヲ作製スル場合ノ參考トナシアリ

附圖 4 附表 6

(2) 故障及之ニ對スル處置

本書ニハ「88式」ニ於ケル故障ノ種類 原因 發見法及故障ニ對スル處置並ニ注意事項ヲ記述シ「88式」ノ教育戰備 其ノ他ノ準備間ニ於ケル故障對策ヲ主眼トセリ射撃間ニ故障ヲ生ジタ場合ニ戰闘ヲ繼續スル手段ニ關シテハ教育規定第三篇第四章ニ詳述シアルヲ以テ省略セルモ其ノ際ニ於テ最良ノ手段ヲ講スルタメニハ故障ニ對スル狀況判斷ノ適切ナ

ルヲ要シ之ガ爲ニハ常時故障ニ對スル經驗ヲ積ムヲ要スル  
ハ勿論特ニ故障發見法・故障ノ程度ノ判斷等ニ練熟スルヲ  
要ス本書ハ之等ノ基礎知識ヲ述ベアリ

目 次

- 第1章 故障及其ノ原因
- 第2章 故障ニ對スル處置
- 第3章 故障探索法
- 第4章 故障防止ノ要件

(3) 使用前ノ準備ニ就テ

本書ハ主トシテ器材ニ就テノ技術上ノ見地ヨリ準備作  
業ヲ最モ一般的ニ記述セリ故ニ實際ニハ各場合ニ應ジ且  
狀況ニ依リ作業實施ノ要領ハ自ラ異ナルモノナリ

附圖 2 附表 3

(4) 教育上ノ著眼事項  
諸講評ノ摘録其ノ他

本書ハ從來本校ニ於ケル研究及教育中ニ得タル取扱上  
教育上ノ著眼事項注意事項並ニ演習ニ於ケル講評 訓示  
等ノ抄録セルモノニシテ記述ノ順序体裁等ヲ無視シ重複  
不備ヲ避ケス唯羅列シ學生ノ參考トナスモノナリ

4

- 一 要塞重砲兵中隊射撃豫習例題集
- ニ 海上監視ノ參考
- 三 大口徑火砲ノ直協火力ノ増加ニ  
依ル突撃支援射撃ニ就テ
- 四 音源標定ニ關スル參考

部外秘 蒐録第215號

昭和16.11.調製 陸軍重砲兵學校

(1) 要塞重砲兵中隊射撃豫習例題集

目 次

- 水上艦船ニ對スル射撃
- 對潜水艦射撃
- 照明射撃
- 氣球及飛行機觀測射撃

(2) 海上監視ノ參考

目 次

- 第1章 認 視
- 第2章 艦船ノ識別
- 第3章 警 戒

(3) 大口徑火砲ノ直協火力ノ増加ニ  
依ル突撃支援射撃ニ就テ

目 次 陸軍少佐 原 一 権

1 緒 言

- 2 突撃支援射撃一般ノ要領
- 3 突撃支援射撃ニ於ケル各砲種ノ特性ト其ノ協調
- 4 射撃ノ方式及射撃地域
- 5 砲彈着接可能距離ト射撃地域配當
- 6 突入時ノ最終彈ノ齊一
- 7 突撃支援射撃ニ用フル彈種
- 8 突撃支援ニ於ケル砲兵運用ノ一例
- 9 教育訓練上ノ著意事項

(4) 音波標定ニ關スル參考

音源標定ニ關シ主トシテ本校ニ於ケル研究ヨリ抜粹シ參考ノ爲印刷シタルモノナリ

目次	技師
1 用途	
2 編成ノ概要	
3 能力	
4 用法	
5 波形判讀ノ要領	
6 重砲ト音源標定	
7 敵ノ音源標定ニ對スル對策	
8 教育訓練期間	
9 其ノ他	
10 前世界大戰ニ於ケル主ナル戰例	戰例 7

5 蒐錄 第216號

部外秘

昭和16.12 陸軍重砲兵學校

(1) 對潜水艦戰ノ參考

目次

第1章 潜水艦ノ性能及戰術法
第1節 潜水艦ノ性能
第2節 潜水艦ノ戰術法
第2章 潜水艦ニ對スル射撃効力
第3章 水中聽測ノ概要
第1節 水中聽測ノ原理
第2節 水中聽測ノ能力

陸軍重砲兵學校研究部編纂

(2) 九八式海岸射撃具ノ參考

目次

第1節 九八式垂直基線測遠機
第2節 射角變換器
第3節 方向發信器及射角發信器
第4節 方向照準具及射角照準具
第5節 發電機



附錄 器材ノ解

(3) ラ式 15 榴加農機銃ノ參考

目 次

第 1 章 編成及分隊長以下ノ定位

第 2 章 射 擊

射擊用意及解除

射向附與

彈藥及信管ノ準備

裝 填

射角附與

發 射

諸元ノ變更

射擊ノ中止 再興及停止

(4) 重砲兵射擊指導計畫  
主要訓練事項集

目 次

第 1 中隊射擊

其ノ 1 對砲兵戰及其ノ他ノ遠戰

其ノ 2 障地設備ノ破壞

第 2 大隊射擊

第 3 精神的要素

3

南方氣象調查自第一號至第四號

馬來半島氣象一覽表(自十月至三月)

秘 陸氣密第 666 號

昭和 16. 12. 20

陸軍氣象部

視程階級別出現頻度 (午前、午後)

下層雲形別出現頻度 (午前、午後)

下層雲高階級別出現頻度 (午前、午後)

天氣別出現頻度 (午前、午後)

氣象一覽表 (十月~三月)



4

南方氣象調查第六號

比律賓之部

秘 魯 氣象部 689 號

昭和 16. 12. 24

陸軍氣象部

自十一月至六月 間 氣象細説トシテ

風、氣温、湿度、降雨、天氣及雲

高層風 ニ分チ記述スラルモノトス

1 南部佛印氣象月報

極秘

昭和16.9 第25 野戰氣象隊

昭和16年9月南部佛印氣象概況

1. 氣壓配置ノ動向及氣象ノ推移

本月ハ南西季節風期ノ終息近キヲ知ルト共ニ北東季節風期ニ轉換セントスル前衛期ニシテ支那大陸ニ發生セル移動性高氣壓ノ動靜ヲ知シ得ルニ至ルモ全般ニ南西季節風卓越シ佛印全土ハ一般ニ低氣壓ノ發生多大ニシテ所々ニ降雨ヲ齎セリ。特ニ中位ニ在リテハ南部地方ニソノ發生顯著ニシテ交趾支那三角地帯ニハ不連續線ヲ伴フモノ頻發シ午后定狀的ニ驟雨發生シ時トシテハ強雷ヲ伴ビ一時多量ノ降水ヲ見ルニ至ル。下位ニアリテハ南部海岸地方ニ於テハ中旬ト同様不連續線ヲ伴フ低氣壓南下シ驟雨性降雨ヲ見ル更ニ大體高氣壓ハ除々ニ示度ヲ高メ去來シ其ノ勢力範圍ヲ擴大スルニ至リ時トシテ安南北部ヲ蔽フコトアリシモ全般ニ勢力弱ク僅カニ北東季節風ノ轉換期近キヲ思ハシムニ至ル又北部地方ニアリテハ天候陰鬱ニシテ降水ノ持續ヲ見ルニ至

ル。尙此ノ間比律賓群島低壓帯ニハ屢々胎風ノ温床トナリ  
時トシテソノ影響佛印全土ニ及バシメタル事アリ  
以下上旬、中旬、下旬ニ於ケル氣象概況ヲ記述シ  
2. 3. 4. 5. 6. 8. 項目ニ渡リ地上風、氣温、濕度、雲、視程  
降水、天氣雜象ニ就キ夫々概況ヲ記述シアリ  
他ニ低氣壓進路圖、南部佛印地上風圖……各1

高層氣流圖……6

南部佛印氣象一覽表

サイゴン、ブノンベン、コンボントラツシュ、シエム

リアツブツラーン各觀測所觀測記録表

2 南部佛印氣象月報

極秘

昭和16.10

第25 野戰氣象隊

昭和16年10月南部佛印氣象概況

1. 氣壓配置ノ動向及天氣ノ推移

本月ハ前同ニ比シ南西季節風極度ニ衰ヘ北東季節風次第  
ニ吹走スルニ至ル支那大陸ニ發生セル移動性高氣壓ノ消長  
極メテ顯著ニシテ時ニ佛印全土ヲ覆ヒ北東風ノ流走ヲ見タリ  
全般ニ未ダ完全ニ北東季節風期ニ入ラザルモ移動性高氣壓  
ノ動靜並ビニ天氣ノ推移ヨリ考察スルニ所謂季節風轉換期  
ニ入りタルヲ知ル然ルニ南部佛印地區ニ在リテハ移動性高  
氣壓ノ通過トナリ成ハ又之ガ勢力圏内ニ入りタル事稀ニシテ  
前旬ト同様日射ニ依ル低氣壓ノ發生夜間ノ輻射冷却ニ依ル  
消滅等其ノ消長極メテ頻々タリ特ニ注目スベキハ「ベンガ  
ル」灣及ビ比律賓沖ニ低壓部ヲ存シ時トシテ顯著ナル不連  
續線ヲ伴ヒテ存在シタル事ナリ斯カル狀況ナレバ地上風ハ  
區區ニシテ一定セズ特ニ低氣壓群ノ發生セル場合ハ然リト  
ス。全旬ヲ通ジ午後定狀的ニ所々ニ驟雨ノ發生ヲ見タルハ

前月ト同様ナルモ各地共其ノ起時ノ遅延シタル事ハ注目スベキ事ナリ。中下旬ニ至ルニ從ヒ支那大陸ノ移動性高氣壓次第ニ勢力ヲ増シ頻々トシテ去來スルニ至ル此ノ間北部佛印ハ完全ニ是ガ圏内ニ入リタル事アリ又南部ニ在リテモ時トシテ之ガ縁邊ニ覆ハレシ事アリシモ末ダ隨所ニ低氣壓ノ發生ヲ見タリ。前月比律賓群島低壓帯ニ於テ屢々發生セル颱風ハ本月ニ至リ全ク終息シ輕キ低壓部ヲ存スルニ至リタリ。

以下上旬、中旬、下旬ニ於ケル氣象概況ヲ記述シ

2.3.4.5.6.7.8.項目ニ渡リ地上風、氣温、湿度、雲、視程

降水、天氣雜象ニ就キ夫々概況ヲ記述シアリ

他ニ低氣壓進路圖、南部佛印地上風圖…各1

南部佛印氣象一覽表

サイゴン、フノンペン、コンボントラツシユ、シエムリ

アツプツーラン各觀測所觀測記録表

1 北支那氣象月報(昭和16年10月)  
第一部其ノ一及其ノ二

秘

昭和16.11.30 一 榮 第 9882 部 隊

目 次

第1北支那氣象概況

第2北支那氣象一覽表

第3各地地上觀測表

各地觀測表ハ下ノ諸元ヲ含ム

雲況、氣壓、氣温、地皮温、地皮温ト氣温トノ差、地温(10、30 層)湿度、水蒸氣張力、風向風速、風向別頻度並ニ平均風速、全雲量、下層雲量、最多雲形、各層雲高、最低雲高、降水、地中温(05、15m) 積雪、日照時、視程、階級別視程觀測回数雜象記事

1 朝鮮上層氣流月報

秘 軍機氣上月0012號

昭和14. 12

朝鮮總督府氣象臺

1) 各層別上層氣流概況

地上附近の最多風向ハ末ダ區々デアツタガ200米層デハ  
既ニ大部分西寄及至北西トナリ 500米層以上ハ殆ド西北西  
乃至北西トナツタ 鬱陵島ノ風向ハ各層ヲ通ジテ區々デアツタ。平  
的風速ハ概シテ順調デアツタガ1500米層ノ中部デハ可成  
強ク海州(2000米層)デハ14.6米/秒ニ及ンダ。最大  
風速度ハ30日ノ城津(5000米層)NW 49.8米/秒ガ  
最モ強カツタ。

尙0-100米層、200-300米層、500-600米層

1000-1100米層、1500-1600米層、

2000-2100米層、ニ於ケル最多風向、平均風速最

大風速度ニ就キ記述シアリ

2) 各層別上層氣流略表

3) 各層別最多風向、平的風速圖

4) 各地上層氣流表

秘 軍機氣上月〇一號

昭和15.1

朝鮮總督府氣象臺

## 1) 各層別上層氣流概況

地上附近ニハ一部東乃至南寄りノ所モアツタガ、概シテ各層ハ西乃至北寄りデ500米層ニ及ブト北西風ガ大部分ニナツタ。平均風速ハ前月ニ較ベテ可成強ク1000米層デ過半数ハ10  $\frac{\text{米}}{\text{秒}}$ ヲ超エ南東部ニハ15-16  $\frac{\text{米}}{\text{秒}}$ ニ及ンダ所モアル。新幕(1000米層)ノ20.6  $\frac{\text{米}}{\text{秒}}$ ハ最モ強カツタ。最大風速度ハ29日ノ蔚山NW 47.9  $\frac{\text{米}}{\text{秒}}$ ハ最モ強カツタ。

尙0-100米層、200-300米層、500-600米層

1000-1100米層、1500-1600米層、

2000-2100米層、ニ於ケル最多風向、平均風

速最大風速度ニ就キ記述シアリ

## 2) 各層別上層氣流略表

## 3) 各層別最多風向平均風速圖

## 4) 各地上層氣流表



3 朝鮮上層氣流月報

秘 軍機氣上月第〇二號

昭和15年二月號 朝鮮總督府氣象臺

1) 各層別上層氣流概況

下層ノ最多風向ハ各地區々デアツタガ500米層ニ及ブト  
殆ト北西乃至北北西許リトナツタ 平均風速ハ上層部ハ幾  
分強イ方デアツタガ先ツ頗調. 最大風速度ハ7日ノ光州  
(1000-1100米層) NW 42.0  $\frac{\text{米}}{\text{秒}}$  ハ最モ強カツタ

尙0-100米層. 200-300米層. 500-600米層

1000-1100米層. 1500-1600米層.

2000-2100米層 ニ於ケル最多風向. 平均風速

最大風速度ニ就キ記述シアリ

2) 各層別上層氣流略表

3) 各層別最多風向平均風速圖

4) 各地上層氣流表

4 朝鮮上層氣流月報

秘 草機氣上月第〇三號

昭和15.3月號 朝鮮總督府氣象臺

1) 各層別上層氣流概況

地上附近ノ最多風向ハ二月ト大差ナイガ大部分北々西ダ  
ツタ上層ハ北西ニ變ツタ。風向區々ノ所モノ多クナカツタ  
平均風速ハ本月ニ違ツテ日立ツテ弱クナツタ。最大風速度  
ハ26日ノ雄基(1000米層) NNW 48.5 米/秒 ハ特ニ強  
カツタ。

尙同日雄基ハ1000米層迄各層ヲ通ジテ最大デアツタ

尙0-100米層. 200-300 米層. 500-600米層

1000-1100米層. 1500-1600米層.

2000-2100米層. =於ケル最多風向平均風速

最大風速度ニ就キ記述シアリ。

2) 各層別上層氣流略表

3) 各層別最多風向平均風速圖

4) 各地上層氣流表

5 朝鮮上層氣流月報

秘 軍機氣上月等〇四號

昭和15.4 朝鮮總督府氣象臺

1) 各層別上層氣流概況

本月ノ最多風向ハ地上附近ハ南寄、上層ハ西寄りガ多カ  
ツタ。風向區々ノ所モ各層ヲ通シテ多クナツタ。平均風速  
ハ先ツ前月ト大差ナイガ上層ハ相變ラズ弱カツタ。最大風  
速度ハ5日ノ木浦(500-600米層)NW 43.2 米/秒  
ガ最モ強ク本月ノ極デアツタ

尙0-100米層、200-300米層、500-600米層

1000-1100米層、1500-1600米層

2000-2100米層、ニ於ケル最多風向、平均風速、最

大風速度ニ就キ記述シアリ

2) 各層別上層氣流概況

3) 各層別最多風向平均風速圖

4) 各地上層氣流表

6 朝鮮上層氣流月報

秘 軍總氣上月第05號

昭和15.5

朝鮮總督府氣象月報

(1) 各層別上層氣流概況

地上附近ノ最多風向ハ東、南、西概シテ區々デアツタガ  
100米層ニ及ブト殆ド西寄乃至北西トナツタ平均風速ハ前  
月ニ較ベテ幾分強イ所モアツタガ概シテ減衰ヲ見セタ最入  
風速度ハ15日ノ蔚陵島SW46.0<sup>米</sup>ハ最モ強カツタ

尙0—100米層 200—300米層 500—600米層  
1000—1100米層 1500—1600米層 2000—2100

米層ニ於ケル最多風向、平均風速、最大風速度ニ就キ記  
述シアリ

(2) 各層別上層氣流略表

(3) 各層別最多風向平均風速圖

(4) 各地上層氣流表

7 朝鮮航空氣象報文

秘 第1卷4號

昭和15.12

朝鮮總督附氣象臺

(1) 霧ノ發生ニ潮汐ノ關係アリヤ

目 次 間野 浩 古川 渙士

1. 緒 言
2. 調査方法及結果
3. 結 び

(2) 「ラヂオゾン元」ニ依ル朝鮮附近ノ  
高層氣象ニ就テ

目 次

1. 緒 言
2. 寒氣ノ侵入
3. 霧ノ發生
4. 寒候期ノ低氣壓、高氣壓
5. 氣塊ノ變形
6. 暖氣ノ侵入
7. 氣溫逆轉層
8. 「フェーン」(江陵ノ最高氣溫)
9. 大陸性氣團ト海洋性氣團

10. 上層ノ氣温ト遅期性

(3) 新京城飛行場ノ風ニ就テ

目次 間野 浩、楠木 森男  
鬼塚 四郎

1. 緒 言
2. 新京城飛行場ト仁川、汝矣島、松月町トノ比較
3. 新京城飛行場ト仁川ノ比較
4. 風向日變化

附圖 42、 附表 18

(4) 黃海北部ノ霧

目次 楠木 久男、古川 渙士

1. 緒 言
2. 霧ノ廣サ
3. 霧ト氣壓配置
4. 霧ノ高サ
5. 時刻別消長
6. 結 語

附圖 18、 附表 9

8 朝鮮氣象月報附録

2.67.

軍機密軍機氣0034號

昭和16.5 朝鮮總督府氣象臺

本報ハ全部表ヨリナリ表題上記ト全ク同様ナルヲ以テ省略

ス



9 朝鮮氣象月報附錄  
2.6.7

軍機密軍機氣0042號

昭16.6

朝鮮總督府氣象臺

本報ハ全部表ニシテ表題ハ如シ

昭和16年6月朝鮮氣象摘要表

濟州・蔚山・大邱・衡陵島・平壤・城津・雄基・清津・

咸興・各氣象月表

6月濃霧日數・區域別發生狀況・霧及烟霧觀測成績表・昭

和16.6月朝鮮燈臺及簡易氣象觀測成績表

同 表面海水溫度觀測成績表

同 水溫觀測成績表

同 朝鮮降水量表

朝鮮蒸發量表

1

兵要地誌資料目録

目 11. 16  
至 12. 15

極秘 關常報第64號

昭和16.12

關東軍參謀部

目 次

第一 地 誌

第二 經濟 資源 産業

第三 氣 象

第四 衛 生

1 噴霧乾燥ノ研究(第1報)

6

秘

昭和17.1 陸軍糧秣本廠器材科

(1) 目的ニ關スル事項

醬油及粉末醬油ノ氣泡現象ヲ探地シ醬油ノ噴霧乾燥ニ於テ起ル氣泡發生狀態及量ヲ考究シ以テ粉末醬油ノ品質ヲヨリ良好ナラシメ且體積ヲ縮小セシムルニ在リ

(2) 判決ニ關スル事項

- 1 粉末醬油ノ空洞粒子ハ主トシテ醬油原液中ヨリ分離セル空氣ニ起因スルモノト認メラレ分離空氣量ハ醬油原液ノ0.1%乃至0.4%ナリ
- 2 醬油原液ノ著シキ運動直後ハ空氣分離容易トナリ且分離空氣量大ナリ
- 3 粉末醬油ノ空洞粒子發生ハ加温又減壓處理ニ依リ相當防止セラル

(3) 將來ニ關スル事項

記述ナシ

(4) 研究ノ擔任者

陸軍技師 鈴木 猛 男

(5) 其ノ他

附表 12 附圖 3

1. 獨軍對戰車障礙物效力研究記事  
秘公戰研第五八號

昭16.9 滿洲第五八三部隊

公校工兵教導隊ノ獨軍對戰車障礙物ノ研究演習ニ參加シタル所見ヲ戰車側ノ見知ヨリ整理シタルモノナリ

(1) 目 的

獨軍諸兵作業教範中道路上ニ設置スル木材ノミニ依ル對戰車障礙(丸木ニ依ル防材・四角防材・三角防材・角材ヲ用フル防材)ノ九七式中戰車ニ對スル障礙ノ程度ヲ檢討シ又戰車支援工兵ノ障礙物處理ニ付研究スルニ在リ

(2) 判 決

- 1 障礙物ニ一次登ニシテ地質堅硬ナル道路ニ設備セラレタル場合ニ於テハ相當ノ障礙ニ呈ス
- 2 研究結果モノニ對シテハ衝擊力進入方向及線向ノ利用等操縦技能ノ發揮ニ依リ容易ニ通過シ得ベシ。強盛大ナルモノニ對シテハ砲射撃ニ依リ基部ヲ破壊シタル上通過スルヲ可トセス

(2) 戰車側研究事項

通過法

進入角度 速度 兩側軌道ノ通過ニ及ス影響

戦車ニ依ル破壊効果

破壊効力 破壊方法 破壊地點 操向ノ切り方 惰力ノ

利用法

設備シテ行フ通過法

木材 積土

(4) 試験員及研究者

將校四名 下士官一〇名

九七式中戦車 二輛

研究者 池 戸 少 佐

(5) 其ノ條

陣地ノ配置要領及實驗結果表一及寫真ハラ附シア

極秘整理番号第 4 號 公報研究第八號

昭 16 . 9 發 ○ 軍戦車對戦車戦闘ノ要領  
(案)

其編制裝備ヲ以テスル戦車戦闘法ニ於ケル編制裝備ヲ以  
テ現行典範令ノ精神ニ即シ戰車對戦車戦闘ノ要領ヲ考  
察セルモノトス

○ 軍機甲部隊ノ編制裝備・戦法・戦車戦闘ノ性能ニ對スル  
情報ハ未ダ匿々タルモノアルモ既往ノ事件今次ノ戦役ニ於  
テ彼ノ露呈シタルモノニ差キ彼我ノ戦闘能力ヲ正當ニ檢討  
ノ上我ガ必勝不敗ノ策ヲ著意ヲ考究セルモノナリ

第 一 章 戦車對戦車戦闘ノ見地ヨリスル彼我戦車ノ性  
能及編制裝備上ノ比較

第一節 戦車ノ性能

第一款 火戦能力

第二款 防護能力

第三款 機動能力

第二節 編制裝備

第 二 章 戦車對戦車戦闘ノ原則的考察

第一節 操典原則ノ趣旨

第二節 地形ノ戦車對戦車戦闘ニ及ス影響

第三節 戦闘ノ爲ノ搜索連絡

第四節 戦闘ノ爲ノ前進並ニ戦闘加入

第五節 突撃並ニ突撃後ノ戦闘

第六節 停止シテ火力ヲ發揚セル戦車ニ對スル正面攻撃

第七節 敵ノ側背ニ對スル機動ニ依ル攻撃

第八節 陣地攻撃間ニ於ケル戦車對戦車戦闘

第九節 重戦車ニ對スル攻撃



第三章 戰車對戰車戰鬥ノ戰例

1 接報 第五一號  
各部各務部所

秘鑑本番 16 第5號

昭 16.10.1 . 海軍艦政本部

(1) 目的

外國ニ於ケル技術ノ進歩ニ關スル艦督官報告ヲ蒐録シタルモノナリ 7 3 頁 第 4 葉

(2) 題目及内容抄録

1. 砲類關係

(1) 米艦常報第三號

イ. 艦船ノ對空防禦施設改善案 (New York Times, N.Y. Herald Tribune 1-28)

ロ. 海軍兵器製造施設擴張案 (New York Times 1-28)

ハ. 英艦船 (King George V, 兵裝 Kife 1-31)

ニ. 英艦船 7吋長距離砲搭載 (Kife 1-31)

ホ. 對英援助 (New York Times 1-28)

(2) 米艦常報第四號

イ. 海軍兵器製造施設擴張案 (New York Times 2-2)

ロ. 海軍水陸施設擴張案 (New York Times 2-8)

ハ. De pont 火藥貯蔵ノ現況 (New York Times 2-4)

(3) 米陸常報第六號

イ. 陸軍兵器工場新設擴張 (New York Times 2-16)

(1) アンモニア工場新設

(2) 小銃工場新設

ロ. 陸軍 Detroit 陸軍工場建設進捗状況 (New York Times 2-16)

(1) 1941年2月10日工場一部完成ス

(2) 25 t 戦車一台年ニ1000 臺製造スルニ要ス

ル工作機約1000 臺・工作用鋼約8000 t

・積定ニシテ未ダソノ $\frac{1}{3}$ シカ入手シ得ズ

(3) 所要従業員5000~6000名ノ積定ナリ

ハ. Midvale 陸軍身甲飯工場擴張

(Herald Tribune 2-20)

ニ. South Charleston 陸軍兵隊ノ新設工場 (雑誌

Steel 2-17)

(2) 無線関係

1. 高周波絶縁材料ロドレーヌ (ポリスチロール樹脂系合

成物) ニオスル特長報告 (12頁) ロドレーヌハポリ

スチロール樹脂系合成物ニテ注入熱ニ依ル硬固ニ適ス

ル如ク調整サレタル未成ノ有る場合あり

高周波絶縁材料トシテ *Insulac* ト稱スルモノアリ

各種ノ高周波絶縁特ニ同軸ケーブル用セパレーターニ

使用セラレ。良好ナル成績ヲ示シ居ルモ *Insulac* ハ獨

國ニ於テ發明セラレタル *Rhodolene* ト全ク類似ナルコ

ト判明セリ古河理化学研究所製品モ大体類似ノ性能ヲラン

ト思考ス

(3) 材料関係

(4) 米陸常報

(イ) 国防上ヨリ見タル金屬資源ノ現況 (*Iron Age*

Jan 2, 1941)

1 鐵 2 鋼 3 クローム 4 タングステン

5 錫 6 亜鉛 7 バナジウム 8 アンチモニ

9 アルミニウム 10 銅

(ロ) ラテンアメリカニ於ケル軍需材料ノ獲得

(イ) (*Herald Tribune*, Jan 16, 1941)

R.F.C.ノ事業近況 (*Herald Tribune*, Jan 20, 1941)

R.F.C.トハ *Reconstruction Finance Corporation*

ノ略語ニシテ主トシテ軍需材料ノ購入貯蔵ヲナシツ

、アリ。事業経過下記ノ如シ

(1) *Rubber Reserve Co*

設立。190,000,000 磅ヲ以テ 430,000 磅ノ

ゴムヲ購入セリ。ソノ現状ハ52,518 應着荷・  
20,139 應着中・16,343 便船待合セ中  
コノ中民間工業會社ガ少クトモ150,000 應ヲ引  
受ケ需要ヲ充スコトヲセリ。12月31日現在、  
56,000 應ノ貯蔵アリ

(2) *Commodity Credit Corporation*

英國政府ト契約シ木綿ト交換ニ95,000 應ノゴム  
ヲ入手スルコトヲナレリ

(3) *The Metals Reserve Co.*

マンガン・クロム・タングステン等  
ノ鐵石・銅・黒鉛・錫・*Wolframite* 等ノ軍需  
材料多量購入ニ着手セリ。ソノ總額376,724,  
000 弗ナリ

(4) *The Defense Plant Corporation*

總額349,779,683 弗ニ達スル購買ニ着手セリ  
ソノ主要ナルモノハ工場建設航空機及部品製造用  
工作機械ノ購入ナリ

(5) *Defense Supply Co.*

最近軍用必需材ヲ供給スルタメ創立セラレタルモ  
ノナリ。航空用ガソリン購入及輸入材料保管庫建  
設ノ費用トシテ50,000,000 弗ヲ充當セリ。又

智利ヨリ54,000,000 弗ヲ以テ300,000 應ノ  
硝石購入ノ契約ヲセリ

(6) *The Defense Home Corporation*

民間會社ニシテソノ能力ナキモノニ對シ従業員住  
宅ヲ建設シヤル爲創立セラレタリ

(a) *Bethlehem* 社製鋼施設擴張 (*New York Times Dec 3, 1940*)

(b) *Republic Steel* 社甲飯工場 (*New York Times Jan 7, 1941*)

(c) ベツセマー製鋼爐復活案 (*New York Times Jan 23, 1941*)

(d) 急造製鋼法ノ考案 (*New York Times Dec 9, 1941*)

(e) X線金屬材料檢出装置 (*New York Times Dec 17, 1941*)

(f) 南米ニ於ケル軍需資源金屬

(2) 米露常報

(a) 米國製鋼能力 (*New York Times 2-1*)

(b) *Steel* 社ノ増産計畫 (*New York Times 1-27*)

(c) *Bethlehem* 社ノ製鋼能力 (*New York Times 1-27*)

(d) *Carnegie-Illinois* 社ノ設備擴張 (*Steel 1-27*)

(3) 米監常報第四號

- (1) 南米ヨリノ鐵ノ購入 (New York Times 2-2)
- (2) 海軍戰備材料タングステン鐵ヲ配給 (New York Times 2-2)
- (3) アルミニウム製産能力 (New York Times 1-16 Business Week 1-4)

(4) 米監常報

- (1) 鋼ノ需要供給關係 (New York Times 2-17)
- (2) 鋼配給委員ノ任命 (New York Times 2-9)
- (3) 亞鉛使用節減報告 (Herald Tribune 2-9)
- (4) U.S. Steel 停業會社製鋼能力 (New York Times 2-11)
- (5) 鐵山技術ヨリ南米ニ派遣ス (New York Times 2-11)
- (6) 輕合金需給對策 (New York Times 2-13, 14)
- (7) エム需給關係 (Herald Tribune 2-18)

(5) 米監常報

要旨： 鐵條ノ製造行ハ增加シツ、アリ。加フルニ相當廠所ナル増産計畫ガ行ハレツ、アリ。鋼ノ使用量増加シテニ國防需先配給制ヲ適用セリ。アルミニウムニハ輕先配給制ヲ適用セラレド尙使用割當ヲ嚴禁セリ。

(6) Steel Ingot 製産ト需要ノ見送ニ關スル件

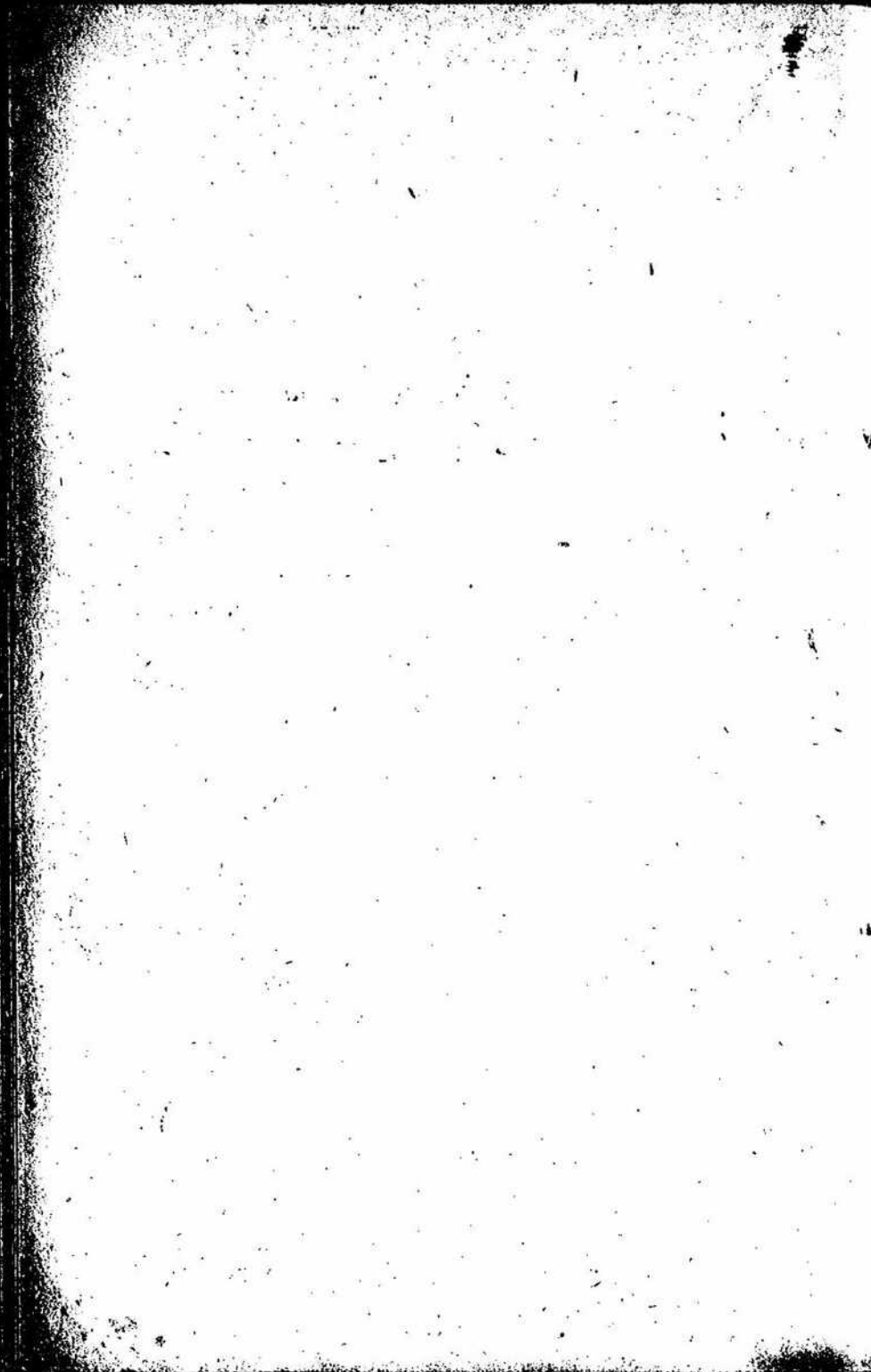
(1941年3月15日現在)

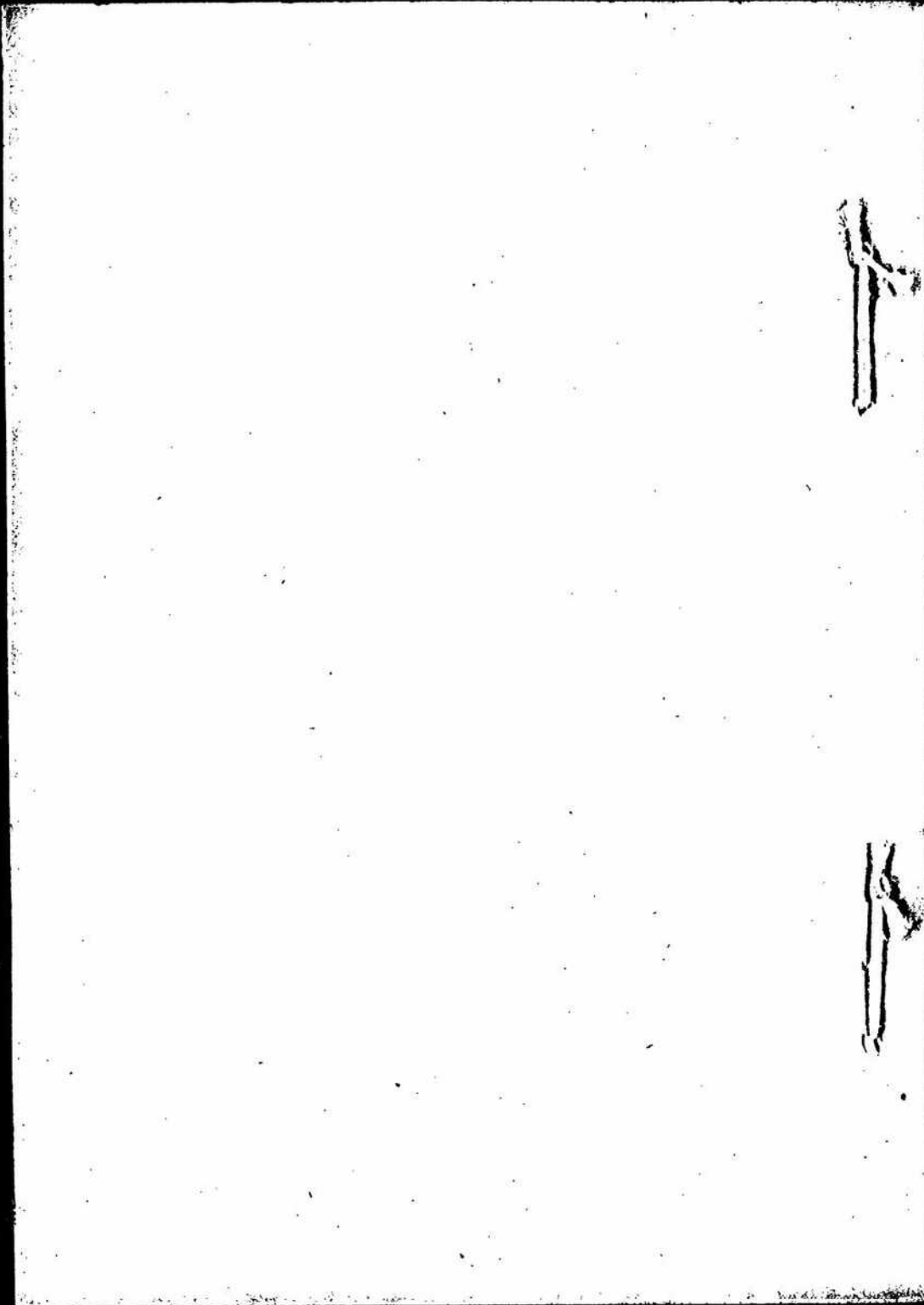
1941及1942兩年ノ Steel Ingotノ製産量ニ使用

見込次ノ如クシテソノ生産量略々需要ニ應ジ得ベシ。

歴年	生産	使用區分		
		民需	商船	輸出
1941	8,758	5,500	255	2,000
1942	9,113	6,000	255	2,200

使用區分			餘裕量
直接國防	間接國防	合計	
300	500	8,525	+ 233
500	300	9,225	- 142





1

1